

2)水中施工部対策

EL.422m 以下および再湛水時の水中部の対策は、拡散防止箱を用いた目詰め工とする。対策工のフローを図 3.4 に示す。

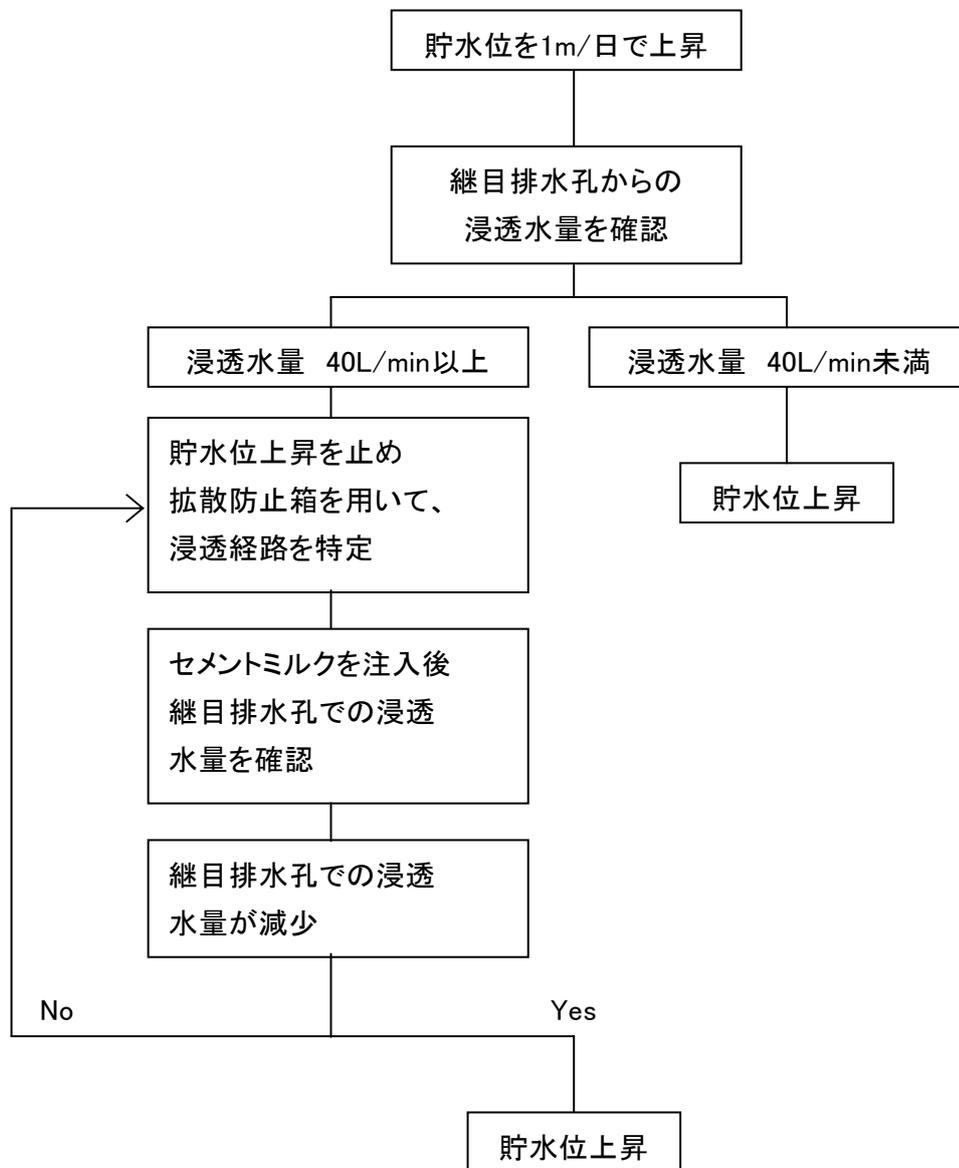


図 3.4 水中施工部の対策工フロー図

### (3)対策実績

#### 【対策範囲】

対策範囲を図 3.5 に示す。対策範囲はサーチャージ水位(EL.480m)以下で、試験湛水時に常時満水位(EL.470m)での漏水量が 20l/min を超えた J3～J6、J8～J16 である。

#### 【水押し試験結果】

横継目での水押し試験結果を図 3.6 に示す。図 3.1 のフローのとおりこの結果によりグラウト注入孔のピッチを決定した。

#### 【グラウト注入結果】

横継目のグラウト注入結果を図 3.7 に示す。図にはグラウト注入量をグラウチング区間長で割った単位長さ当りの注入量を示した。注入量には水平打継目への注入量も合算している。水平打継目の対策実施状況を図 3.8 に示す。横継目の水押し試験で水走りが確認された水平打継目についても対策を実施した。

#### 【拡散防止箱による対策】

平成 13 年 8 月より再度貯水位を上昇させ、図 3.4 のフローにしたがって、拡散防止箱による対策を実施している。一例を図 3.9～3.10 に示す。対策を実施すると漏水量を減少させる効果が認められるが、時間の経過と共にリバウンドも見られる。

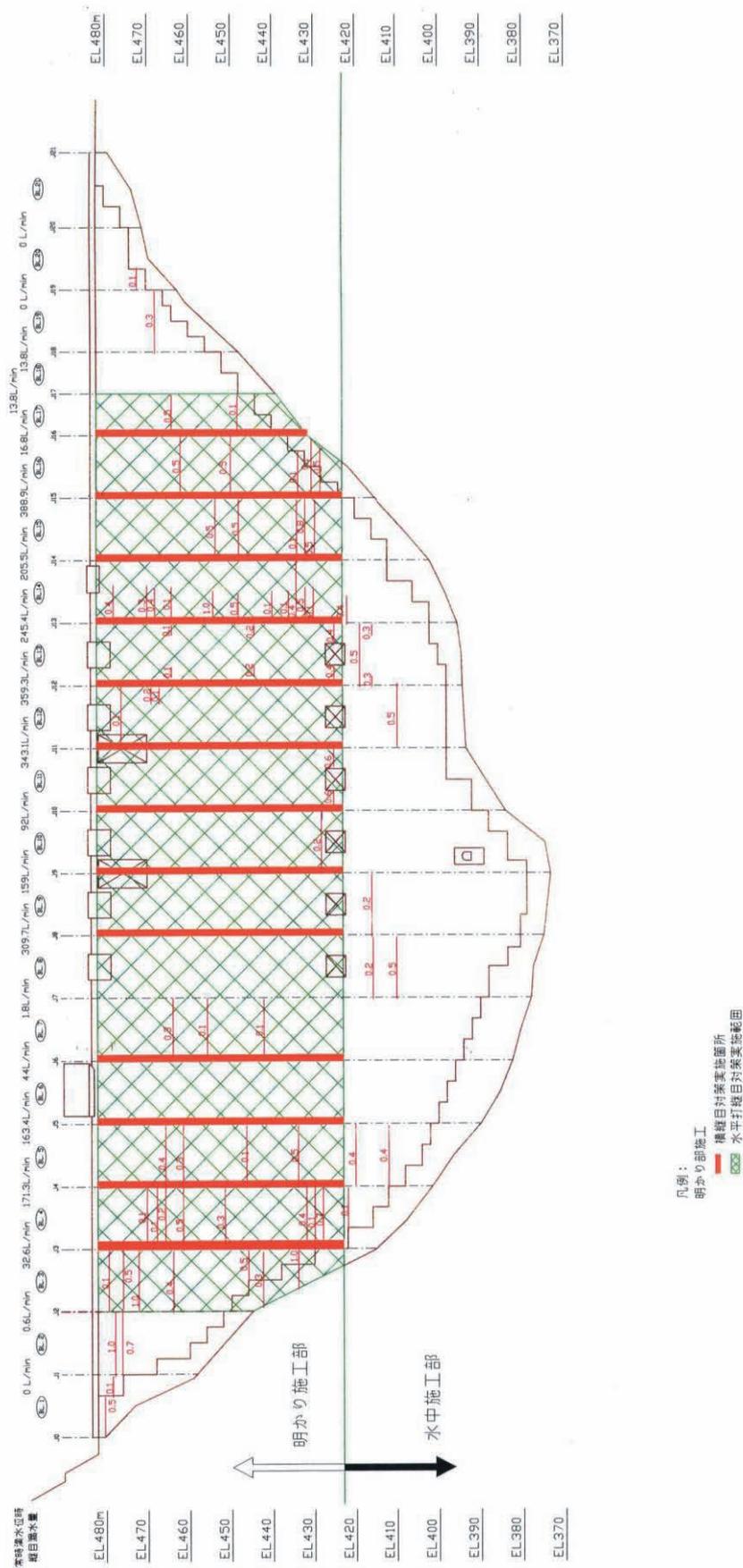


図 3.5 対策工実施範囲

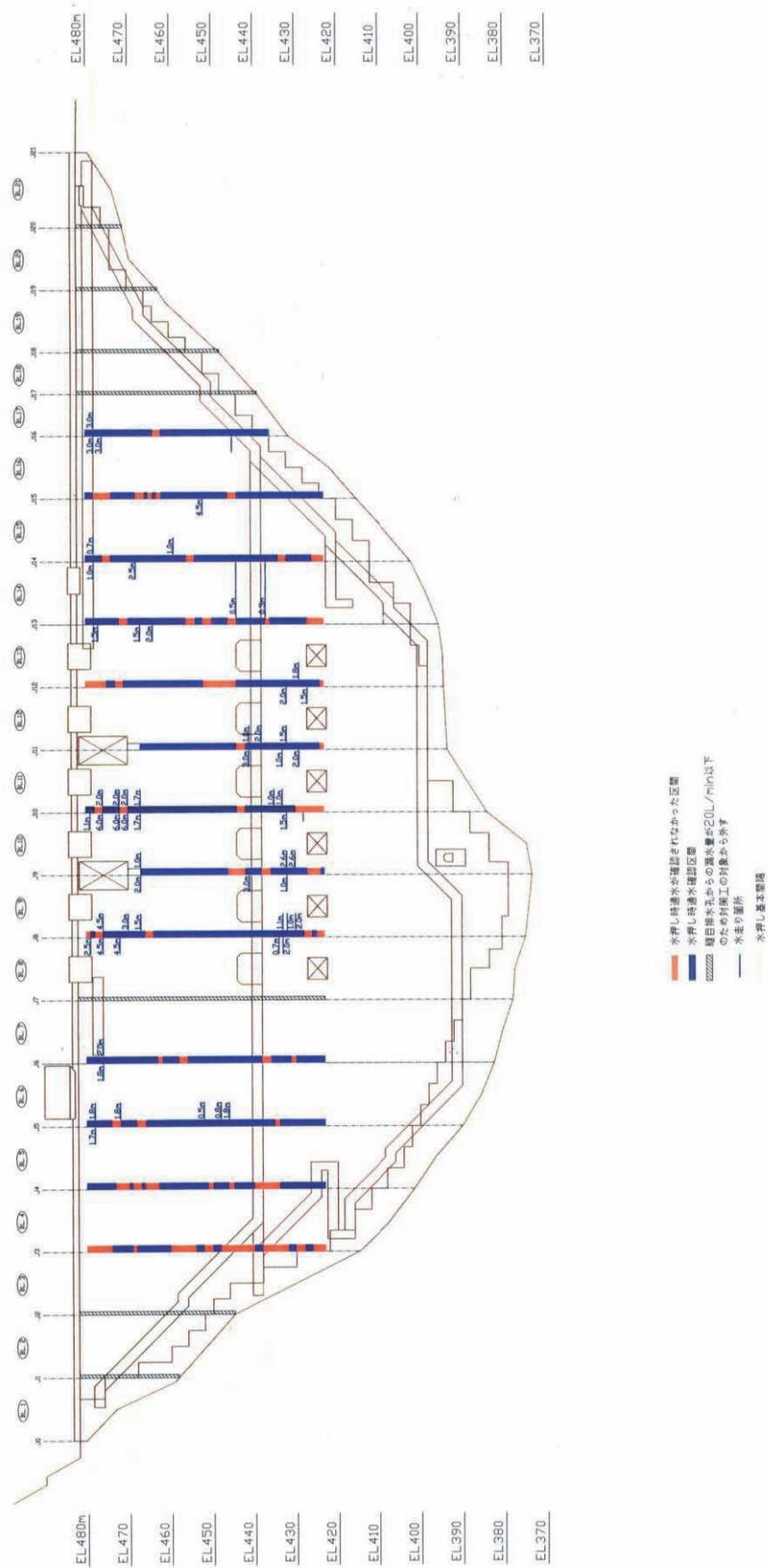


図 3.6 横継目水押し試験結果